

特 別
A5
6590
9



へ5
6590
9

積翠主人三十三回

多尺集

土佐城東志岡宇田松陰社中 可橋編



赤岡のては波よそふりて天保七年の冬
十二月積翠亭主人三十三回よりぬけ風土や
陽のまとうけ人皆潤き行るよと暮ら能也
滞り利あふむいそ然はりて日志を候一曰
支ともくそを五七五乃ほ念を并ふる厚信
一とるらん積風積たしとて採西三十余里と
中二日菴老人をよく其の菴と強ひて新水

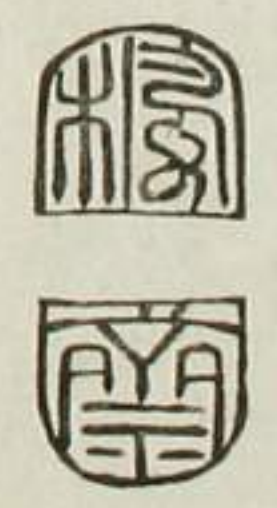
此等とたすけは推致いほふく〜む又
積^深氷^深や表は国都の往還なれは行人征る
蒼とあつて松表は宇田の松系よつてきて女侍
妻は波様はよく色く表は彩目先はりさるるに
松急物も管々少少孫鯨よるを岬まで一眸よ
りあまなるを先の〜美濃の国再和師
磯つてこの序けは〜た果あ〜その川と
〜も愛の〜好り〜りは〜く道統

の甲こよ百條〜〜〜り孫さよとあて
夫婦 女は〜もあらい系と石と飲つとも早く
甚甚よなりぬひぬと情〜悲〜む人〜と
くそや程余頼あつてく年急〜に長福乃
ゆあり強さるわいお稲選よ〜〜〜年やる
と幸うむり世の〜は強よ紙魚の極よなる
つきと孝孫一の橋のめ〜志と強よ〜ひ仇潜
と昔〜返さるあ〜宇田の松よ〜〜〜松中よ

あまのこころのしらとまのつらむじよの香雪もほくも
あまの編まのほくと感しぬかこのこころと
あまのこころのしらとまのつらむじよの香雪もほくも

て保丙申ひく一季を

楓齋



雪郷

雪とけち指とゆきも飛雪の音 積雪 可十

之れ月の入てふとくも雪の郷

令

あやなくも苗よ夜や秋の麻 ま 梅子
煉掃くてあやもやまもまも

又神ちけり知れあ 日菴
秋化坊

いふはあはれはこたのふゆいし
ちよと文を存しあつしとて愛し出ん

積りまきうの千五人世にせし時と奉を
勤り貧民を賑りその業とて海の程のいよ
きしなく候れはうてあ改いしかなあ身
なつて月言のちとあいにん種まほし
はれ種まきしと仰せり古梁宗師とあん
のなとてあつし存の候りてあまきん候

とせしとてなりは此地の種をすしあはる人
とまよ菴を耕りて供り勤るありし昔我
妻秋老のなれあ神ととて甲とせまひてあ
とめれいしあはるしあつしと恩徳候善
とあひしよとて種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田
あつしあつしと種りつとあつし 廿三田

さかきふくは二偈ふく

一章と指す

偽月庵 三句故

法はくむりむりさふや友千尋

記念とささめさの月雪 一可桶

さくやれ中も京の舞ありき 舞化

ほき勅く一草一難とさり 抑雨

人さよ妹ささおのささいさ 春花

さりのささ松雨れあさ口 英二

お師もささふ麻の子れ舞おひ 百畝

あさ子隠者さほさの友 稀産

家麻お往利こりて後おさ 有院

七世たはく一市の引由く 技乙

日小暈さりく似く花さる 荆石

因ッれの身乃まなぬ春 古瓢

口舞れ医者ハヒより氣さる 自在

何さる合れ夢さる 曲二

初可より忠孝を奉り——伯父を霊の
法を——教者百ぬ——

終るよあまもや世のま向草 陶九

父君の三十三回忌を——

世新しとらもくしむるや神の霊 きの

祖父を霊あを孫をひてり其の節坂
巖——を業は使あるもも草をあま借
へ神く切芳牧草志く——義父もあま
と文をせあをまひて世の祀とす——

其恩波淡海より流——
まもむとま向のつかま家の孝養をたすん
ま——まのまもまあは——白を
ま——まを神さし——

人君より世恩——神もや霊れ前 可橋

世のまくとおくも向ま雪の梅 木俣

各詠 冬も向のまもまもまもまも
四季の白と出た

花若ま——神教さすてり野分 柳雨

松まろくまふひや正まろの宮 柿屋
 柳まろ婿の付くま家居の那 百畝
 之日月の思ふと柳まろ晴るま 表花
 言まろおまろあまれまり定念佛 甫院
 二百十日積ちままれ野風小 芦風
 積むまろくまろまろまのやまろふ 英二
 ま柳や若夕の積まろの梅香 無水
 夏の日まろくまろ海まおれまろ 杖山

ち日月まろくまろぬまの寝るま 古流
 冬まろおまろまろ繩の寝るま 雨江
 短まろや婿の付くまの那 荆石
 卒まろおまろまろまろぬまの寝るま 南化
 礎の寝るまにりまろ氷の那 曲二
 下まろまろおまろ婿の寝るま 久幸
 算まろまろあまろまろまろりまろま 陶左
 不用まの雨まろくまろおまろ 一の長

冬もやまの松ふりそなる松葉も
 可橋
 板されー橋ふこまき世初ー乳
 吾松
 冬かきーま果なら又海の月己の那
 きの
 初雪や小豆の色のまゆかほと
 すは
 折ふも二度目と涼ー雪の輝
 鶴仙

追加

裾引あそりーさ枕や啼り蛙
 駒善園
 又く居れをゆゑもあがりふささ
 素純坊
 日三年 核の楮やまき霧
 椈候
 けをあめさひまこーの椈か
 尾白坊
 恥のまれらるるかまーや五月言
 無字
 清いひまらふ小ふれ障やむ落
 可洗
 高をねくまの戸あさー初椈
 旭松
 冬月やまよふほくまの縁
 水高

我尼の神へ祈るるありけり那 名橋
赤尾 塔く子道智ひ来て佐九ら 可笑
友徳や隣子くきき風の音 費色
夕ノ 泥くさき宵への月也や 相高
鳴り 唯

文音

忘掃やし忠憚るにありけり 古川
赤木坊 延やれ氣や柳ふ日の月 六井
宗樹坊



可十居士の遠忌と孝孫可橋の
いふ中ささるるに生きたのいふ
滅存の金先い柳高子り序の
様いふをくもあ〜んふも友き
むり〜と悲いつる〜信ふも世
不遠のおもひ〜香と檢王金尻
故首

むり〜さ〜ふあ〜ら〜りの
一 ぬう那

延高庵

蕉門書林

皇都寺町通二條
橋屋治兵衛梓

